



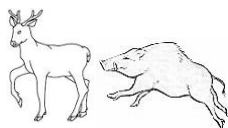
森のなかま

2013年3月号

NO. 59 (継続204号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL 046-280-4101・FAX 046-280-4102

発行人 久保 重明



『豊かな森と共に生きる』～猟師から見た森の変化～

第4回森林文化講演会

講師: 杉本 一 氏



恒例となった森林文化講演会は、4回目を迎え、平成25年2月17日に桜美林大学PFC(プラネット淵野辺キャンパス)P201 教室で開催されました。講師の杉本一氏が現役の猟師であることに関心が高かったようで124名の方に参加を頂きました。神奈川新聞社の取材もあり、2月19日に掲載されました。

杉本氏は(公社)国土緑化推進機構の23年度「森の名手・名人」の「森の恵み」部門に選ばれた名人。その時の推薦人が交流のあった我が会だったご縁で講師をお願い致しました。

準備段階で、杉本氏のお宅を3回(24年4月、12月、25年1月)訪問。お会いする度に、打合せというより本番さながらの貴重な体験を熱く話されるので、一人でも多くの方に是非聞いて頂きたいと、開催をPR、機会あるごとにチラシを配布し、参加の呼びかけを各方面にお願いしました。

皆さん話しに引き込まれました

杉本 氏



当日、会場は満席状態の中で、小柄な杉本氏が大きな存在感で参加者の心を掴んでいく様子が何とも小気味良かったです。前半は「狩猟の話」、後半は「森づくりの話」。一流の猟師になるために動物の生態を熱心に研究し技を磨いた自信と誇り、森で生きる情熱がひしひしと伝わってきました。地域で管理する山の再生についても、動物の棲める山、収益を上げられる山づくりをすれば、災害防止や水源の水にも良いはずと環境と経済の好循環を目指して実践されている様子をわかりやすく話されました。話に引き込まれて時間が短く感じられました。参加者のアンケートにも「もっと聞きたかった」「もう一度講師に」「テーマを決めてシリーズで聞きたい」などの感想、「期待以上だった」と特筆も複数ありました。

この講演会に後援をいただいた神奈川県、相模原市、神奈川県森林協会、(公財)かながわトラストみどり財団、(公財)相模原市みどりの協会、会場を提供していただいた桜美林大学、また杉本氏と親交のある3期清水正巳氏、6期武川俊二氏、他多くの方のお力添えを頂いたことに深く感謝致します。

(記：森林文化部会 9期 内野 ミドリ)



ミツバチ養蜂箱を襲ったクマを生け捕り



スギノアカネトラカミキリの被害を受けた樹幹断面、右の木は正常

杉本 一 氏 プロフィール

- ・狩猟家、平成23年度国土緑化推進機構認定「森の名手・名人」
- ・神奈川県山北町在住。 幼少の頃から森に親しみ、動物の生態に興味を持ち猟師に。 プロの猟師として狩猟技術の修練のみならず、動物の棲める森づくりの重要性、自立できる産業としての狩猟や地域づくりのため、幅広い活動をされています。

後援：神奈川県、相模原市、神奈川県森林協会（支援）

公益財団法人 かながわトラストみどり財団

公益財団法人 相模原市みどりの協会

協力：桜美林大学



オオカミ再導入活動の近況

< 神奈川県チーフインストラクター 飯村 武 >

本誌No. 130号(2007年1月1日)で「オオカミを放つ」と題し、自然生態系の復元、シカ害対策などの観点から筆者のオオカミへの想いを綴り、一方、若い人たちによって日本オオカミ協会が立ち上げられたことを紹介した。細々ながら協会活動は続けられているので、その主な点等を紹介し、参考に資したい。

1. オオカミ再導入の要望にむけて

2010年、協会は一般社団法人となった。これを契機に表記の署名活動を開始し、2012年4月26日、約94,500筆の署名書を環境大臣と農林水産大臣に手渡した。なお、署名活動には富士通、いすゞ自動車、小松製作所、日本航空、後藤田法律事務所など31の企業団体が協力。

2. 国会議員のオオカミ再導入の勉強会

前記の署名活動開始と同時に表記勉強会が始まり、これまでに3回、超党派で行なわれた。

3. オオカミ再導入の連続シンポジウム

マグヌス・ヴェッセル氏(ドイツ生物多様性連合)の「ドイツにおけるオオカミ復活と住民との共生」の基調講演のもとに、表記シンポが2期に分けて行われた。

第1期(2011年10月3日～同8日(6回))

札幌、帯広、釧路、東京、長野、山梨

東京開場には『横綱白鵬関』がかけつけ「——自然を保ってくれるのはオオカミ——」のメッセージ、聖なる動物の復活の懸け橋なればと結んだ。

第2期(2012年4月20日～同25日(6回))

東京、静岡、大阪、兵庫、徳島、熊本

なお、協会は3年毎にオオカミ復活理解度調査を実施しているが、第6回の2009年には支持27%、反対18%で、初めて支持が反対を上回った。2012年の調査は現在取り纏め中。

4. その他

2012年7月1日、協会は「生物多様性国家戦略」にオオカミ復活を位置づけるよう、環境大臣に提言。

なお、横浜開港150年祭(2009年)記念の「生き物文化誌学会」で筆者らにより「消えた生き物 — オオカミ と トキ —」が発表され、秋篠宮殿下も参加され、前向きで活発な討論が展開された。

ともかく、以上のようなオオカミ再導入の要望は署名提出と国会議員の勉強会開催で、新たな局面に進んだと言ってもよい。乞う、ご声援を！である。

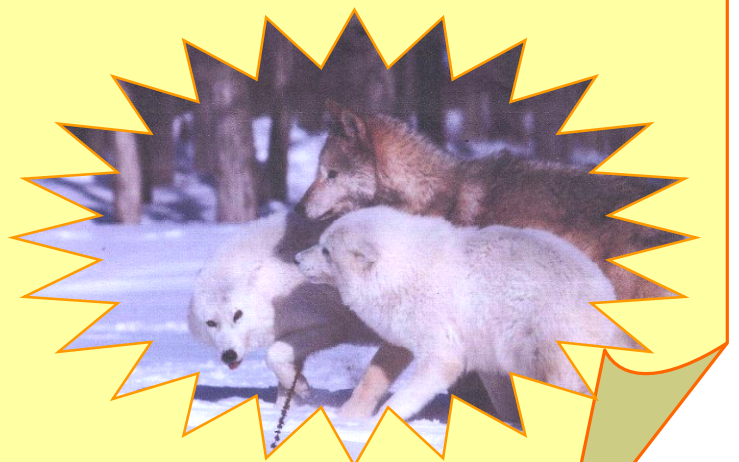


写真 一般社団法人 日本オオカミ協会
2009年カレンダーより



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。



(広重の平塚宿)

自然観察部会 『森林探訪 高麗山 広葉樹の自然林を歩く』 大磯駅～高田公園～湘南平(千畳敷)～高麗山～高来神社 1月19日(土)

< 9期 小林 保喜 >

9時10分大磯駅前にて参加者の受付開始、高田公園でのオリエンテーション後、85名が9班に分かれて最初の目的地「湘南平」を目指す。この日の朝の冷え込みは厳しく、厚着をして家を出たがさすがこの大磯の地は温かい、途中で着衣の調整が必要となるほどだ。ほぼ定刻の13時10分「湘南平」到着。踏査、下見と重ね、この地を訪れるのは4回目となるが、今日は展望と好天に恵まれた素晴らしい探訪日和となった。眼下に広がる相模湾、そして箱



湘南平展望台

根、丹沢の山並み遠く富士山の遠望が開ける。どれも最上の眺めだ。日溜りの中、湘南の眺望を楽しみながらゆったりと昼食をとり自然と参加者との会話も弾む。

そして、次の目的地高麗山までの60分の道程が本日のメインコースとなる。高麗山は東海道沿線で、常緑広葉樹林からなる自然林が残る唯一の場所である。江戸時代から全山が高麗寺の聖域として保護さ

れてきたため、近郊に例のない樹相林を呈している。この地の歴史と、湘南に残された貴重な広葉樹の自然林を楽しんで頂けたらうか。予定の14時50分には最終目的地の「高来神社」に無事全員が到着、参加者の皆さんを最寄りの花水バス停までご案内して解散となった。

< データ >

参加者：85名（男性29名、女性55名、子供1名）

(公財) かながわトラストみどり財団 企画課長 窪田様、看護師 青木様

インストラクター：L 小林(保)⑨、友谷①、黒澤⑧、飯澤⑨、小沢⑨、女川⑨、小林(富)⑩、杉崎⑩、上宮田⑪、鳥飼⑪、赤崎⑫、小池⑫



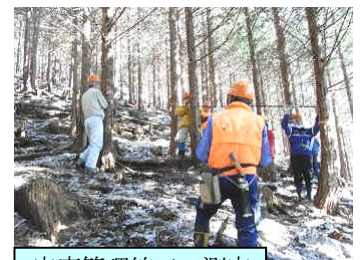
日当たりの良い斜面での解説



森林部会 『人工林整備技術研修会 (密度管理・選木・間伐作業)』 1月20日(日) やどりき水源林

< 11期 松永 廣 >

非常に寒い朝、JR松田駅に集合、車に分乗してやどりき水源林へ、「後沢出会」で再集合、共用道具類を配分、ストレッチ体操をして、研修現場であるやどりき水源林ボランティア林A上部(標高720m付近)を目指して20名で出発しました。歩き始めて数分するとみなさん汗が流れてきましたので体温調節のため小休止です。40分程で研修現場に到着、オリエンテーション実施後2班に分かれて研修開始です。昨年度は密度管理と間伐作業を班ごとに午前・午後入れ替えて実施しましたが、本年度は2班とも午前は密度管理・選木とロープワーク、午後は間伐作業を実践しました。密度管理竿の使い方も慣れてきており樹木測定はスムーズにいました。

密度管理竿での測定
(写真 5期 滝澤)ロープワーク
(写真 11期 松永)

もやい結び

ロープワークについては苦勞している姿が見受けられましたので今後も継続して取り入れる必要を感じました。間伐は安全対策に重点を置いて全員で一つ一つ確認をし、復習をしながらの作業でしたので密度の濃い研修が出来たと思います。

最後に全員でコーヒーを飲みながら今まで疑問に思っていたことや確認したいと考えていたことが確認出来たようで研修の目的は達成できたと感じました。

“なぜこの木を倒すのか” 鋸谷式密度管理を学ぶことにより単に伐倒するのではなく“どのような森林”にするのかという根本的な問題に正面から向き合うことができ、間伐作業に関心がより深まり、今後のインストラクター活動の糧にさせていただけたら森林部会としては本望です。

私の認識

野鳥その107

高橋 恒通

今月のガンカモ目ガンカモ科の野鳥は、淡水ガモで冬鳥のアメリカヒドリ(漢和名:米国緋鳥、英名: American Wigeon、体長L=48 cm)です。

野鳥その 105 でご案内させて頂いたヒドリガモのアメリカ版のカモと思って下さい。この野鳥の正式名称が“アメリカヒドリ”で、後に“カモ”がつきません。

では、アメリカヒドリ成鳥♂の体色からご説明いたしましょう。

まず嘴がヒドリガモと全く同じで、先端が黒色、それ以外は鉛色です。次に額から頭頂にかけて淡黄白色、後頭部と頬は淡黄白色地に黒斑が混じり、目のまわりから後頸にかけては緑色です。この緑色は光の加減で金属光沢を示します。背面は褐色味が混じった灰色、胸前から脇腹は紫褐色です。尾羽、下尾筒は黒色で、下尾筒の付け根が鮮やかなクリーム色です。成鳥♀は嘴が♂と同じ色ですが、体色全体が地味な褐色です。ヒドリガモ♀の体色と比べると淡褐色気味なのですぐ判ります。



我国での棲息環境は湖沼、池、河川、内湾等です。

次稿のトモエガモや、前稿のヨシガモなどと同様にアメリカヒドリも渡来数の少ない野鳥だと私は認識しております。その最大の理由はアメリカヒドリの世界地図上の棲息分布が、この野鳥の名前が示す通り繁殖地は北米大陸の中～高緯度領域、そして越冬地はメキシコ、テキサス、ミシシッピ、ジョージア、フロリダ、そしてキューバ、ハイチ、ドミニカ、ガテマラ、ニカラグア、などです。

従って越冬で日本へ渡来するアメリカヒドリは、シベリアなどで繁殖し日本に来るカモ類達と比べて倍以上の飛距離が必要なのです。我国で観察される

アメリカヒドリが稀少なのは当然の筈ですし、その長距離飛翔能力の凄さは正に瞠目に値します。

アメリカヒドリは何故かヒドリガモの群れの中に少数が混じっている事が殆どです。

故にヒドリガモの集団が居たら、その中に頭頂部がクリーム色で目のまわりから後頸にかけて緑色をした個体を探してみてください。運が良ければアメリカヒドリに逢えるかも知れません。実は私自身、28年間のバーディング歴の中でアメリカヒドリを観察できたのは3回、それも毎回成鳥♂1羽のみでした。

更に、神奈川県下では相模原貯水池での1回だけです。それ以外は日本野鳥の会沼津支部の“田子の浦”と“狩野川三日月湖”の探鳥会の時の2度だけです。

因みに日本野鳥の会が行っている“ガンカモ一斉調査”の結果、当県下では2010年が♂4♀1、2011年が♂3、2012年が♂2です。

このデータの中で3年間連続で確認されている場所は多摩川下流域のみで、他は泉の森、久里浜港、酒匂川河口、相模原貯水池、平塚渋田川下流、とバラバラでした。であるとしたら、ガンカモ調査で私の担当している伊勢原市西富岡の成城学園グラウンドの調整池でもアメリカヒドリに逢える可能性あります。

ところで、驚くべき事にロシアの鳥類学者の報告ですと、シベリア東部のヒドリガモの繁殖地では、アメリカヒドリの成鳥♂の少数がシベリア東部にやって来て、ヒドリガモ成鳥♀に受入れられて交雑個体の存在が確認されているとの事です。

〈参考資料〉

◎日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑 7、写真・解説／叶内拓哉、分布図・解説協力／安部直哉、解説(鳴声)／上田秀雄、山と溪谷社

◎日本の野鳥、山溪カラー名鑑、編 高野伸二、解説 浜口哲一他3名、山と溪谷社 (イラスト) 広報 大塚 晴子

国際連合総会で、『3月21日を国際森林デー』とすることが宣言されました。

2013年以降、毎年この日、森林や木々が地球上のすべての生き物にとって大切であることについて意識を高め、ほめ讃えることにしましょう。

活動短信



今回の掲載 11/25～12/9

投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号以降の掲載になるものもあります。
予めご了承下さい。

◆ 宇津木の森再生プロジェクト2012 第3回目活動

- 日 24年11月25日(日) 9:30～15:30、晴れ
場 八王子市久保山町宇津木台緑地(八王子市所有)
参 大人10名+子供2名(小2)、一計12名
スタッフ 宇津木台 森遊会代表 金森様(10期)
特別参加 松山様(10期)

イ L 上田⑩

宇津木台緑地は約4haの八王子市の雑木林で、毎月第4日曜日を活動日と定めて、「市民に憩いの場」を、「子供たちに環境教育の場」を提供し、地域社会に愛される森づくりを目指している。第3回活動の主な内容は、来春に計画している「森のコンサート」を行う林間の整備を行った。法面の広幅テラスの部分演奏舞台として利用できるように整備する。そのための作業は

- * 階段を作る。間伐材を利用して約2mの高さの法面に階段を取り付ける。
- * テラス上に堆積した土砂を撤去し床面を整地する。
- * 舞台背景になる林内の除伐(笹、灌木類)
- * 夏季に間伐し林内に散在した広葉樹の片づけ(切断、集積)

作業は12時半に終了。間伐材の熾し火でサンマを焼き街中では中々体験できない秋の味覚を楽しんだ。

昼食後杉の小枝を使ってクリスマスリースを作成した。松ボックリやドングリ、林の中で見つけたものを飾り付けて思い思いのリースを完成させた。子供たちも森の中で手伝いや、いろいろな遊びを見つけて楽しく時間を過ごしていた。

15時30分 事故、ヒヤリハットもなく、道具の手入れ後片付けを済ませ次のスケジュール等連絡後解散した。(記 10期 上田 啓二)

◆ ふじの体験の森“やませみ” 間伐体験

- 日 24年11月28日(水) 8:30～13:30、曇時々晴
場 相模原市藤野
“ふじの体験の森やませみ”(大日野原の森)
参 相模原市立光が丘小学校5年生61名 教師4名
スタッフ やませみ職員 児玉様 他5名

財 古館様、初山様

イ L 松山⑩、富樫⑥、齊藤⑥、
小野⑦、塩谷⑦、海野⑩、加藤⑫

8時45分、ふるさと自然体験教室“やませみ”に宿泊していた子供たちは、朝の冷え込みにも負けず、みんな元気に飛び出してきた。9時からはじめの会。道具をつけて、大日野原の森へ移動。6班に分かれて間伐作業。間伐、玉切り、コースター作りなどをして12時終了。“やませみ”に戻り昼食、グループミーティング、活発な質問が続いたが、13時30分まとめの会をもって終了。どの顔も輝いていた。ヒヤリハットなし。

(記 10期 松山 隆治)

◆ (キリンビール)パートナー林 保全活動(間伐)

- 日 24年12月1日(土) 9:45～12:30、曇
場 やどりき水源林 キリンビール・パートナー林
参 キリンビール横浜工場 社員28名(内、女性4人)
県 金子様
イ L 竹島③、佐藤⑤、武者⑦、飯澤⑨、
加藤(久)⑫、西出⑫

10月19日(金)の下見で選木と用具の確認を行い、参加者70名に対してインストラクター10名で準備したが、11月17日(土)は天候不良で延期となり、参加者が大幅に減少しての開催となった。主催者側の挨拶、リーダーの注意事項等の伝達、準備体操の後、5班に分かれて現場に向かった。対象木はほとんどスギで、予め選木されたものの中から掛かり木の可能性の低いものを選んで、まず、作業場所周辺の整備を行い、伐倒作業に入った。方向を決め、チョークで受け口を明示して、ロープを掛け、全員が鋸を握れるようにローテーションで作業を行った。事前に伐倒は出来るだけ1本にする様に指示はあったが、直径15cm程度のスギのために作業は短時間で完了し、また参加者の強い要望もあり、2本を伐倒した。その後、枯木2本を処理して、全作業を完了した。総括では、特に問題となるヒヤリハットがなかった事、急な斜面での作業であったが参加者が少ない分、各班の間隔が広く取れて安全性が確保できた事、今後は現場に応じた参加者数の検討などを話し合った。(記 12期 西出 健一)

◆ 竹林整備(伯東株式会社)

- 日 24年12月1日(土) 9:30～13:00、曇時々晴
場 県立21世紀の森

参 伯東株式会社 従業員とその家族

(大人25名、子ども1名)

イ 山崎⑦、渡辺(朋)⑫

伯東株式会社様の森林活動第2回目として、スギの人工林に侵入している竹の伐採を行った。集合前に雨がぱらついたものの、曇りときどき晴れ間がのぞき、予定どおり作業を行うことができた。21世紀の森は紅葉も終盤で、参加者は最後の紅葉を楽しめたようである。

現場は斜め切りされた竹が残っていたため、事前に注意を促しながら、地際から切り直し処理してから作業にかかってもらった。細い竹ばかりなので、受け口、追い口を切らなくても伐ってしまえたが、今回の参加者は、夏の下刈りの経験のみで間伐の経験がないため、基本に忠実な伐採手順を説明した。ゴーグルがなかったので目に枝が当たらない様十分注意する指示を行う。

昼食後、山崎インストラクターが竹細工のおもちゃを配布。紐をひっぱると、反対側でないとところがひっぱられる不思議な仕掛けで好評だった。そして開成町にある7つの島の由来、マレーシアから持ち帰った松ぼっくりなど、珍しい種を参加者に見せながら種の話をした。

参加者からは「前回の下刈り作業は暑く大変だったが、少し寒いくらいで軽く汗が出て気持ちよく作業ができた」との感想を聞く。満足していただけたようで、担当者様から「今後、年2回の森林整備を定例行事にしたい」と伺った。継続して参加して頂ける事に期待。

(記 12期 渡辺 朋和)

◆ (日揮)パートナー林 保全活動

(森林癒し体験、クリスマスリース作り)

日 24年12月2日(日) 10:00~14:00、曇り

場 やどりき水源林

スタッフ 日揮株式会社 坂井様

参 日揮株式会社 7名(申し込み11名)

県 内田様

イ L福島⑪、白畑⑦

午前森林癒しの体験、午後クリスマスリース作りとなりましたが道具等都合により午前クリスマスリース作り午後森林癒し体験になりました。当日、リース作りで日立システムズの活動と一緒にでしたが人数の少ない我々の作業場所づくり等お手伝いいただき、和やかに共同作業が行えました。リースを作るため林道を歩き各自杉の枝集めを行いました。今の季節、杉は揃

えられるのですが飾りになる素材が少ないので持込みました数多くの素材で参加者さまさまざまなリースを作ることが出来ました。癒し体験では参加者の皆様が積極的に行動して頂き、水源林の中を寒さにもめげず滝の癒し、森の中の樹冠のゆらぎ、腹式呼吸による声出し等おこないました。子供を含め皆さんが徐々に体も温まり、心も癒されましたが最後の体験を行っている最中、雪が混じる小雨が降りはじめ、早めに終了いたしました。(記 11期 福島 正治)

◆ クリスマスリースづくりと

間伐材丸太切り体験 (日立システムズ)

日 24年12月2日(日)8:30~14:00、曇り

場 やどりき水源林

参 株式会社日立システムズ

82名(大人50名、子ども32名)

県 内田様

イ L森本⑤、落合③、出口④、山崎⑦、
一重⑪、上宮田⑪

曇天で寒い一日。クリスマスリースがメインの活動だけに、参加者のテンションは高い。最初に、材料とする杉の葉を採取。ツルと飾り(ツルウメ・モドキ)は、NPO 法人四十八瀬川自然村さんより事前に入手していたこともあり、昼前には皆、立派なクリスマスカラー(赤・緑)のリースが出来上がっていた。子ども向けには、割り箸・ゴム鉄砲や竹トンボづくりのコーナーが先方の協力者で運営され、会からは、ロケットラワンを提供した。少し早目の散会となったが、皆さん、満足されたものと思う。

リース用グルーガン本体とスティックが、100円ショップで調達出来たことは幸運だった。素材と道具が揃うことから、今後、リースの売込に繋げてみたい。

(記 5期 森本 正信)

◆ パートナー林の保全活動(JX日鉱日石)

日 24年12月8日(土) 10:00~12:00、晴れ

場 やどりき水源林

参 JX日鉱日石エネルギー株式会社

150名(137名+スタッフ13名)

県 内田様、篠原様

イ L三浦⑧、落合③、森本⑤、阿部⑧、小沢⑨、
村井⑨、大澤⑩、松山⑩、小林⑩、杉崎⑩、一重⑪、
上宮田⑪、徳岡⑪、石川⑫、永松⑫、西出⑫

参加者は社員とその家族の方で、間伐、自然観察、

木工工作の3つのグループに分かれて活動した。

間伐は50名(子供1名)で後沢に入って左のエリアで作業した。急斜面ではあったが怪我はもとより、ヒヤリハットもなく、皆さんはそれぞれ間伐体験を楽しんでくださったようだ。

自然観察は51名(子供2名)で、林道コースを散策した。花の少ない時期ではあるが名残の紅葉、冬芽、動物の痕跡、更に水源林の役割など皆さんには熱心に話を聞いていただいた。

木工工作は36名(子供17名)で、シュロバツタ作り、丸太切りとコースター作り、ロケットラワン遊びと、半分近くいた子供さんにも喜んでもらえた。

晴天の中皆さんには怪我などもなく楽しく活動してもらえたと思う。(記 8期 三浦 雄二)

◆ 県民参加の森林づくり

日 24年12月9日(日)8:00～13:30、曇り時々晴れ

場 真鶴町 岩 (県行造林) ヒノキ 24年生

参 86名

財 豊丸様、永島様 看 田嶋様

スタッフ 小田原市森林組合 佐久間様

イ L三浦⑧、竹島③、米山④、滝澤⑤、杉戸⑥、坂齋⑦、阿部⑧、水津⑨、上田⑩、小笠原(多)⑩、後藤⑩、川森⑪、波多野⑪、山口⑪、吉田⑪、小笠原(望)⑫

今年(24年)最後の県民参加、12月上旬ということもあり、参加者が少ないと思っていたが予想と違い総勢約100名となった。マイクロバス5台に分乗して約30分程で現地に到着、オリエンテーションを行った後各班それぞれの間伐場所に向った。

参加者が追い口を切る際は必ずインストラクターが近くについて安全確認を行うようにリーダーからの注意があった。現場は比較的平坦で間伐しやすい場所ではあったが強風が吹いていた。午前中、各班とも5～6本等の伐倒を行った。昼食前にインストラクターの反省会を行った。強風の影響で受け口を切り終えた時点で倒木しそうになったという意見や枯れ木の間伐の危険性などの意見がでた。昼食後のリーダーによるミニ講座は「年輪について」であった。

今回は13期研修生が14名も参加していた。今回、インストラクターとして初めて活動を行ったが改めて自分の未熟な点を身を持って痛感した。しかし、諸先輩方

のおかげで無事に終えることができた。この経験をこれから活動に生かしていきたいと思った。

(記 12期 小笠原 望)

◆ 竹林(真竹)の整備と竹工作

日 24年12月9日(日)10:00～15:00、晴れ

場 県立21世紀の森

スタッフ (株)足柄グリーンサービス 4名

参 公募 12名

イ L小野⑦、野牛⑧

当日は小2から中1の子供4人を含む12名の参加者で、厳しい寒さと強風の中、真竹展示林内での整備と間引き材を使つての竹工作を行ったが、施設側のご好意で昼食と工作の場に研修室を提供頂き謝意を表したい。開始に先立ち我々2名が持参した竹細工見本(竹ぽっくり・剣玉・花器・菜箸・水筒等)を参考に作業後の材料確保も説明の上伐採作業を開始。

伐り方は高い位置と地際伐りの2度作業を指示して爾後の安全面と景観に配慮した。

午後は各自好みの作品に取組んだが子供は竹ぽっくりや剣玉、大人は正月を控えてか花器や菜箸に人気が出た。また野牛さんの斜切りの妙手は注目を集めた。作業過程での質問や手こずった時には我々や要請者が対応したが皆さん大変熱心に取組まれ夫々作品と予備の材料を土産に解散となった。

事故無く無事終了したが、終了後の要請者と我々との協議の場で参加者の増加が今後の課題とされた。

(記 7期 小野 幸広)

略語の説明

日: (平成) 年日付、 場: 場所、 参: 参加者、
県: (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)
財: ((公財)かながわトラスティみどり財団)
スタッフ 例 小田原市森林組合・XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様
看: 看護師、 イ: インストラクター (○数字: 期)

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水源環境の
保全・再生をめざして



やどりき水源林 ミニガイド

2月のトピックス

黄色い怪鳥の飛来と思いきや!!
鹿柵等を運搬するヘリが発着していま
した。(群馬県のヘリ会社でした)



(広場手前の河川敷、2月14日撮影)

3月の水源林

春の訪れがあり草花の芽吹きも始
まります。また、10月桜もまだ咲い
ているかもしれません。春よ、来い、
早く来い!! 皆さんもいらっしゃい。

「森の案内人」情報

休止していた案内人活動も3月から
始まります!!

- 実施時間：毎週土曜・日曜・
午前10時・午後1時1～2時間程度
- 集 合：水源林入口ゲート前
- 内 容：森林インストラクターが自然
観察にご案内します。森林のしくみ
手入れなどについて説明致します。
参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記まで
ご連絡ください。
- 問合せ：(公財) かながわトラス
トみどり財団 TEL:045-412-2255
携帯：090-8580-5348
FAX:045-412-2300

- ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
- E-mail:midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線
松田駅下車、富士急湘南バス「寄(や
どりき)」行き乗車約25分。バス下車
後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

『森のふれあい館 外来生物展』

(2012.10.1)～2013年3月17日(日)
神奈川県足柄下郡箱根町箱根 381-4
森のふれあい館
9時～16時半
入館料 大人650円
平日中学生650円、
小学生400円
土日祝日の小中学生は無料
問い合わせ先:森のふれあい館 0460-83-6006
関連サイト:<http://www.hakone.or.jp/morifure>



◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集してい
ます。

<広報全般についてのお問い合わせ>
小沢章男まで

Mail: a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel: 0467-52-2191

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Tel/090-6150-6173

Mail: s.akasaki-k.instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口俊則

(1月号からメールアドレスが変わっています)

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: minagold109@kjd.biglobe.ne.jp

【OCで】竹島 明

(過去号でメールアドレスが間違っていて記載されて
いる号があります。正しくは下記です)

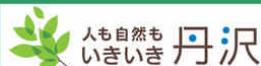
〒238-0045

横須賀市東逸見町 3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

Mail: 2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。



丹沢の自然再生に取り組む

丹沢大山自然再生委員会ホームペ
ージは下記URLでごらんください。

<http://www.tanzawasaisei.jp/>

編集後記



★寒い日々が続いていますけれど、
木々の芽は確実にふくらみ、庭のクロッ
カスも花芽を出しました。願わくは、花
粉は少なく、春よ、来い!! (赤崎)

★早い所では、梅の花がもう綺麗に咲
いていますね。寒い空気の中で、確か
な春の訪れを感じます～! (加藤)

★先月の森のなかま発送日は広報M.
Sさんのお誕生日!!当日はなんとMSさ
んお手製の絶品チーズケーキでお祝
いする方がされて、楽しい会合となりま
した♪ (大塚)

★最近、野鳥観察に凝りだしました。付
近の土手歩きでは、シジュウカラ、ハク
セキレイ、アオジ、カワラヒワ、ホオジ
ロ、モズ、ツグミ、スズメ、ヒヨドリ、カワセ
ミ、メジロ、ジョウビタキ、キジバト、..大
雄山駅ではアカハラに初めて会えまし
た。 (村井)

★これから散策が楽しくなる春が待ち
遠し時期ですが、花粉症の私には複雑
な気持ちです! (水口)

★狼について執筆して頂きました。私
は和歌山県立博物館で日本に3体しか
ない日本オオカミの剥製を見る事がで
きました。 (松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方
は、郵便局備付けの郵便振替を利用
してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛ま
で購読料年2000円をお振込みくだ
さい。振替用紙には、必ず、住所、氏
名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1
年間お届け致します。
(頒 価 200円 送料共)

編集人: 小沢 章男

事務局: 竹島 明

広報部: 水口俊則 松本 保

真貝 勝 鈴木 朗

鈴木松弘 大塚晴子

村井正孝 徳岡達郎

加藤暖子 赤崎さほり

森 義徳

まつだ桜まつり 2/9(土)～3/10(日)



問い合わせ先
松田町役場環境経済課
TEL 0465-83-1228
松田山ハーブガーデン
TEL 0465-85-1177

山やお花見のお帰りに是非お越しください。

山 麓 の オ ア シ ス ①
～ お 食 事 処 ～

こ ま ち

小田急 新松田駅
踏み切り際

緑の募金箱協力店